



■モミ（イネの種子）を手に入れる

4月の初めに、モミを手に入れよう。モミは、一般の園芸店などでは売っていないんだ。ほんの少しの量なら、知り合いの農家の人に頼んでみよう。できれば、いろいろな種類をもらってみよう（モミは消毒してあるので、絶対食べないで！）。農家に知り合いがいなかったら、農業試験場に連絡してみてね。

■まく前の準備

モミをバケツにまくのは、4月の末ごろ。まく日をまず決めてしまおう。まく日の10日前になったら、準備をはじめよう。

まず、塩を水に溶かし、「卵がやっと浮くくらい」の濃さの塩水を作る。そこに、モミを入れてかき回し、沈んだモミ（これが「よいモミ」）だけを取り出して、水でよく洗う（必ず洗うこと）。

このモミを、茶碗やどんぶりに入れて、たっぷり水をそそぎ、部屋の中に10日おく。こうして、モミに水をたっぷり吸わせるんだ。水は、毎日必ず交換しよう。

■モミをまく

栽培に使う土は、畑や山の土なども使えるけど、農協などで売っている「イネ用の育苗用培土」が、農家の人にたんぼの土をわけてもらうのがよい。育苗用培土は、肥料入りなので、化成肥料はまぜない。4ページの図のような方法で、土と肥料を混ぜ、モミをまいてみよう。バケツに、最初から土と肥料を入れてしまうと、うまくかき混ぜられないと思う。一度、袋に移すとうまくいくよ。

それからモミを10粒ほど、深さ1cmくらいに埋めるんだけど、くれぐれもそれより深く埋めないように。それからコップ1ばいほどの水をかけ、部屋の中の日なたに置く（外に置くとスズメに食べられてしまう）。毎日観察して、土の表面がいつも湿っているように、水をやる。1週間ほどたつと、小さなイネの芽が出てくるよ。

このくらいの
間をあけて、
うめていく



■芽が出てからのせわ

イネが3cm以上になったら、元気のよいイネだけ3~4本残して、あとは引き抜いてしまおう（間引き）。そして外の日当たりのいい所に出そう。このとき注意するのは、夜は真っ暗になる所に置く、ということ。夜でも明るい街灯の下や、職員室のベランダなどにおくと、米がとれなくなることもある。

イネは水が大好きだから、葉の先が水面に顔をだすくらい、水をたっぷり入れよう。毎日見て、水を切らさないようにする。特に、イネが大きくなる夏は、毎日、どんどん水がへってくる。水をくれぐれも切らさないように。そうしないと、米がとれなくなったり、枯れたりするよ！

夏休みに入ったらすぐ、肥料をあげよう。化成肥料を、ペットボトルのキャップに半分ぐらい、土の表面にパラパラとまいてやるだけでいい。こんな風に、育っている途中で肥料を追加してやることを「追肥（ついひ）」というんだ。

■見のがすな、イネの花！

8月にはいるとクキがだんだん太くなってきて、イネの「穂」が顔をのぞかせる。これを「出穂（しゅっすい）」というんだ。この出穂の時期は、イネの種類・その年の天候・栽培方法などで違ってくる。よく観察してみよう。

イネの穂には、「モミ」がたくさんついている。この「モミ」が割れ、「おしべ」が飛び出すのが、「イネの花」で、穂が出た次の日あたりには、もうさき始める。朝の9時頃からさき始め、お昼ごろには「モミ」がとじて、花は終わってしまう。1つの穂のモミが、全部さきおわるまでは1週間くらいかかる。夏休み中だから、注意して観察しよう。

